原著論文

地理教育の視点と受験地理

ー学習指導要領と高校入試・大学入試・教員採用試験の整合性についてー

The Point of Geographical Education and Entrance Exam Questions in Geography: On the Consistency between the Governmental Guidelines for Teaching and Senior High School/University Entrance Exams and the Teacher Employment Test

伊藤　善文*
ITO Yoshifumi

Abstract : The point of geographical education is to let students cultivate their geographical way of viewing and thinking of local features in relation to the natural surroundings and social environmental conditions and historical backgrounds. This is also mentioned in the governmental guidelines for teaching. In order to cultivate the students' geographical way of viewing and thinking the teachers give lessons by making the students confirm the location of each area and/or region on the maps while showing them the geographical expansion. On the other hand, geography teachers at junior and senior high schools pay attention to how best to teach geography to their students preparing for senior high school or university entrance examinations. The problem is focused on two points. One is whether school lessons of geography alone can be enough for the students to pass the entrance examinations, and the other is whether there is any consistency between entrance examination questions and school lessons in line with the governmental guidelines for teaching.

In order to make these points clear, I examined the geography questions in some entrance examinations for senior high school and in the National Center Test for University Admissions. As a result, two things became clear. One is that there is some consistency between school lessons and entrance examinations for senior high school and the National Center Test for University Admissions and the other is that students need to have the more detailed geographical way of thinking and judging as they study more and more. Then I wondered how much knowledge of geography is required of university students who want to become social studies teachers after graduation. And I examined geography questions in the Teacher Employment Test. I analyzed the geography questions in entrance examinations for senior high school, the National Center Test for University Admissions and the Teacher Employment Test. As a result, it became clear that studying geography by finding out the location of some place on the map and by reading the topographical map is necessary for having the fundamental knowledge of geography and for cultivating the geographical way of viewing and thinking.

Keyword : geographical education, governmental guidelines for teaching, senior high school entrance exams, university entrance exams, teacher employment test

要旨：地理教育の視点は、児童生徒が地域の特色を自然環境や社会条件、歴史的背景と関連させて考察し、地理的見方・考え方を培うことである。学習指導要領にも、その旨が記され、教師は地理的見方・考え方を育成するため、地域の位置を地図で確認し、空間的広がりを示しながら授業を進めている。他方、学校現場では、高校入試、大学入試を控えた生徒にどのように地理授業を行うかを意識している。学校の授業だけで入試に備えることができるのか、学習指導要領に沿った授業と入試問題は整合性があ

＊甲南大学教職教育センター教職指導員

るのか、これが本論の論点である。

そこで、高校入試と大学入試センター試験の地理的内容の問題を例にして、仮説を立てて考察した。その結果、高校入試、大学入試センター試験とも授業との整合性はあるが、発達段階に応じて、より詳細な地理的思考・判断を要することがわかった。また、教員採用試験の地理的内容の問題を例にして、社会科教員を目指す大学生に必要な地理的素養を考察した。その結果、高校入試・大学入試センター試験・教員採用試験とも、地図上の位置や地形図読図が出題され、地図をとおして考えることこそが地理的見方・考え方や地理的素養の基本であることが明らかになった。

キーワード：地理教育、学習指導要領、高校入試、大学入試、教員採用試験

1．はじめに－研究の動機－

筆者は中学校・高等学校で地理授業を行ってきた。中学校・高等学校の地理教師は、生徒に地理に興味・関心をもたせ、地理教育の視点である地域の特色を自然環境や社会条件、歴史的背景と関連づけて考えさせ、地理的見方・考え方を培うことを目標にして、日々授業を行っている。そのため、生徒は身近な地域や日本および世界の諸地域について、発達段階に応じた知識・理解が必要であり、地図を使って、空間的広がりや地理的課題について学習している。日々の授業が依拠するところは学習指導要領である。学習指導要領および解説には、各科目の目標・内容・指導計画の作成と内容の取扱い、が記され、学校現場では、これに沿って学習指導案が作成され、授業が進められている。

他方、中学校・高等学校では、教師も生徒も学力の定着や成績向上とともに、授業内容が高校入試や大学入試に結びついているか、入試に対応しているか、受験勉強の一助になっているかを意識している。そこで筆者は、入試に耐えうる地理授業、いわゆる受験地理について、学習指導要領に示された地理教育の視点との関連はどうなのか、また、社会科教員を目指し、学習指導要領を学ぶ大学生に求められる地理的素養について、教員採用試験との関連はどうなのか、を明らかにしようと考えた。論点は学習指導要領と高校入試・大学入試・教員採用試験との整合性についてである。

なお、これまで学校現場からの地理教育に関する論考は、授業開発・授業分析・授業設計などが多く[1)]、また、高校入試・大学入試・教員採用試験を一括して論じた先行研究はなかったように思われる[2)]。

2．研究の方法

本論考に用いた資料は、連続性の観点から、小学校学習指導要領社会科の地理的内容[3)]・中学校学習指導要領社会科地理的分野[4)]・高等学校学習指導要領地理歴史科地理Ａ・地理Ｂ[5)]および兵庫県公立高等学校入学試験の地理的分野の問題[6)]・大学入試センター試験地理Ａ・地理Ｂの問題[7) 8)]・兵庫県公立学校教員採用試験の地理的内容の問題[9) 10)]である。

また、研究の方法は、中学校・高等学校学習指導要領と高校入試問題・大学入試センター試験問題との整合性について仮説をたてて考察した。その中で中学校では、高校入試問題の分析と学習指導要領の関連を明らかにし、学習指導案（略案）を作成して、授業の留意点を述べた。また、高等学校では、大学入試センター試験問題と授業の留意点について言及した。さらに大学では、教員採用試験問題と小・中・高等学校学習指導要領に共通する地理的見方・考え方について、また、社会科教員を目指す大学生に求められる地理的素養について考察した。

3．小学校・中学校・高等学校学習指導要領に共通する地理的見方・考え方とその手法

小学校社会科地理的内容、中学校社会科地理的分野、高等学校地理歴史科地理Ａ・地理Ｂの学習

指導要領に共通する地理的見方・考え方は、小学校では、「地域の様子は場所によって違いがある（３・４学年）」、「国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっている（５学年）」。中学校では、「位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえる」、「環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察する」、「地域は相互に関係しあっている」、「地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性がある」、「自然及び社会的条件と関連付けて考察する」、「自然環境、歴史的背景、（中略）他地域との結び付きを中核として考察する」。高等学校では、「地理的環境や民族性と関連付けてとらえる」、「地域性や歴史的背景を踏まえて考察する」、「多面的・多角的に調査する」、「分布と人間生活とのかかわりについて考察する」、「歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察する」ことなどである。

これらに共通する内容は、地理的諸事象は「場所による違い」や「地方的特殊性と一般的共通性」があり、自然環境や社会条件、歴史的背景などと関連している。また、地理的諸事象と人間生活とのかかわりを「多面的・多角的考察し、地理的諸課題を探究し、将来の国土の在り方などについて展望させる」と述べている。

地理的見方・考え方を培う共通の手法は、「地図や地球儀の活用」である。小学校３・４学年では、身近な地域を観察・調査し、その結果を「白地図にまとめ」、５・６学年では、「地図や地球儀、資料などを活用し」、地域の特色や国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連があることを考察する。中学校では、日本および世界の諸地域の特色を「地球儀や世界地図を活用し」、自然及び社会条件と関連付けて考察する。また、高等学校では、「地球儀と世界地図との比較」、「世界地図の読図」、「地形図の読図」、「目的や用途に適した地図の作成」、「地域調査やその結果の地図化」などである。

一般に、地理は地図をとおして考えるといわれるが、地球儀も不可欠である。球体である地球表面を対象とする地理は、地球儀でなければ説明できない事象を多く含んでいる。その地域の位置（緯度・経度・赤道・北回帰線・南回帰線・北極圏・南極圏・対蹠点など）、方位、面積、地球の自転と公転による時差や季節の変化、大気の大循環、海流、などである。これらは、地球儀を見て考えると分かりやすい。また、校種によって扱う地域の広がり（身近な地域、市区町村規模、国家規模、州・大陸規模、地球規模など）やアプローチの方法（高等学校の系統地理と地誌など）、内容の深まりは異なるが、それは児童生徒の発達段階によるものであって、地理的見方・考え方の基本は同じである。

小学校での地理的内容の学習は、中学校でも、高等学校でも生きているはずである。仮に高等学校で地理を選択しなかった大学生も中学校の地理的分野で学んだ地理的見方・考え方を身につけておれば、後は、知識・理解の量を増やせば、教員採用試験に対応できるはずである。単に、地名物産を覚える地理ではなく、地理的事象の原因や地方的特殊性、一般的共通性を地図をとおして理解することが、地理的見方・考え方を培うことに直結すると考える。

４．高校入試・大学入試を意識した中学校・高等学校での地理

中学校・高等学校の地理授業は、学習指導要領の目標や内容に沿った授業展開が望まれるが、現場の教員は、多かれ少なかれ高校入試や大学入試を意識して授業を行っている。ワークシートのカッコの穴埋めや確認テスト、地理用語の確認、図表の読み取り、白地図作業などは、地理の基礎的内容の定着を図り、地理的見方・考え方を培う前提となる。また、定期考査も入試を意識して作成される場合が多く、過去問や演習問題、実力テスト、模擬試験は、入試に直結している。それでは、入試問題と学習指導要領の目標と内容は整合性があるのか、現場の地理授業（学習指導案）は整合性があるのか。次のような仮説を立て、中学校と高等学校の地理授業について検証してみたい。

【仮説】高校入試・大学入試と学習指導要領は整合性がある

（1）高校入試問題と中学校社会科地理的分野の学習指導案（略案）

仮説を検証するために、兵庫県公立高校入試問題を例に、その傾向と対策（授業での留意点）を考えてみたい。また、学習指導案（略案）を作成してみたい。

1）兵庫県公立高等学校入試問題の例

表1は、平成20年～平成24年実施の兵庫県公立高等学校入学試験社会科地理的分野の出題内容である。ほぼ毎年、出題されるのは、「世界のすがた」、「日本のすがた」、世界から見た日本のうちの「自然環境の特色」、「人口の特色」、「資源と産業の特色」および「身近な地域の調査」であり、学習指導要領に示された中学校地理的分野から満遍なく出題されている。

表1

兵庫県公立高校入学試験　社会科地理的分野　出題内容一覧

（実施年）

出題内容	24年	23年	22年	21年	20年
世界のすがた	○	○	○	○	○
世界各地の人々の生活と環境	○	○			
世界の諸地域	○				
日本のすがた	○	○	○		○
世界から見た日本					
・自然環境の特色	○	○	○	○	○
・人口の特色	○	○	○		○
・資源と産業の特色	○	○	○	○	○
・地域間の結びつきの特色		○	○		○
日本の諸地域	○	○	○		
身近な地域の調査	○	○	○	○	○

富士教育出版社『平成25年度受験　兵庫県公立高校入試問題』より

問題1は、平成22年の問題である。$\boxed{1}$1は南北アメリカに関するもので、①日本の正反対の位置、②山脈名、③南アメリカ最南端の都市の太陽の位置、④南アメリカの都市の7月平均気温、⑤アメリカ合衆国の農業、⑥アメリカ合衆国の工業、の問題であり、学習指導要領の目標と内容に沿ったものである。また、高校入試問題の内容（正反対の位置＝対蹠点、おもな山脈、緯度と太陽の関係、気候、農業、工業など）は、高等学校の学習内容の基礎であり、質問方法は組み合わせ問題があり、大学入試センター試験と似ている。

問題2は、平成24年の地形図読図の問題である。内容は、①方位や地図記号、②距離、③1971年と2008年の土地利用変化、であり、③を例として示す。地形図読図は等高線や地図記号、土地利用変化を読み取るものが多く、問題を数多く解き、地形図に慣れることが大切である。また、地形図読図は、小学校で学ぶ地図記号、中学校・高等学校で学ぶ等高線・地図記号・風景写真などと学習が連続しており、大学入試センター試験では頻出問題である。中学校学習指導要領解説の「内容の取扱い」には、「地図の活用に関する技能」として「地形図や市街図などに慣れ親しみ、」と述べている。

問題1、**問題2**の結果、高校入試問題は学習指導要領に沿った内容で、日ごろの授業の延長上にある。

2）中学校学習指導案－アメリカ合衆国－

次に、前述の**問題1**の$\boxed{1}$1(5)に関連して、アメリカ合衆国の学習指導案（略案）を示したい。[11]

＜単元目標および評価規準＞

・アメリカ合衆国について関心をもち、その地域的特色について、自然環境、社会条件、歴史的背景などと関連させ、意欲的に追究することができる。（社会事象への関心・意欲・態度）

・アメリカ合衆国の地域的特色を明らかにする視点や方法を、多面的・多角的に考察することができる。（社会的な思考・判断）

・アメリカ合衆国の地域的特色について、地図資料や各種統計、地理情報などを活用・考察し、その結果を発表することができる。（資料活用の技能・表現）

・アメリカ合衆国の地域的特色について理解し、その知識を身につけることができる。（社会事象についての知識・理解）

3）高校入試問題と学習指導要領、学習指導案の整合性について

1）2）の結果、高校入試問題は学習指導要領に沿った内容で、日ごろの授業の延長上にある。したがって、**高校入試問題と中学校学習指導要領（日ごろの授業…学習指導案）は整合性がある。**

問題１

1

1　南北アメリカ大陸に関する次の問いに答えなさい。

(1)　日本を地球の正反対側に置いた位置を示すものを，図1中のア～エから1つ選んで，その符号を書きなさい。

(2)　図1中のXの位置にある山脈名を書きなさい。

(3)　図1中のa，eの都市に関して述べた文として適切なものを，次のア～エから1つ選んで，その符号を書きなさい。

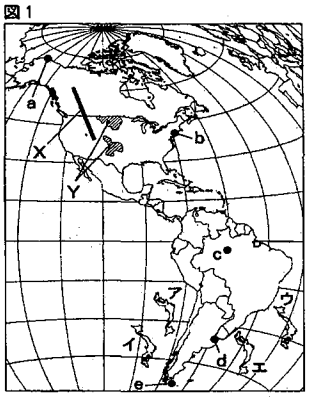
ア　aでは，6月には太陽が沈まない日が続く。

イ　aでは，春分の日の正午に太陽は真上から照らす。

ウ　eでは，夏至の日の正午に太陽は真上から照らす。

エ　eでは，12月には太陽が地平線上にのぼらない日が続く。

図1



(4)　表1は図1中の都市a～dの7月の平均気温を示している。dにあたるものを，表1中のP～Sから選んで，その符号を書きなさい。なお，P，Sは1年の各月の平均気温のうち，7月の平均気温が最高である。

表1　平均気温（℃）

	P	Q	R	S
7月	25.0	26.6	11.1	4.7

（『理科年表　平成22年』より作成）

(5)　日本をはじめとする多くの国は食料などの農産物をアメリカ合衆国から輸入している。図1中のYの地域で生産されている主な農産物として適切なものを，次のア～エから1つ選んで，その符号を書きなさい。

ア　大豆　　イ　小麦　　ウ　とうもろこし　　エ　綿花

(6)　アメリカ合衆国の西海岸では，航空機や電子機器を生産する先端技術産業が発達している。サンフランシスコ近郊のサンノゼ付近にあるコンピュータ関係の工場や研究所が集中している地域を何というか，書きなさい。

問題２

3　図1と図2を比較し，この地域の変化について述べた文として適切なものを，次のア～オから2つ選んで，その符号を書きなさい。

ア　図中の⋯で囲んだ部分では，針葉樹林が広がっていた丘陵をけずり，田が広がった。

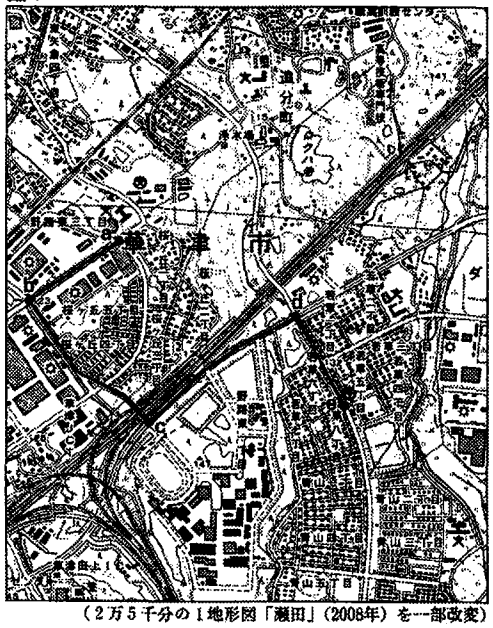
イ　ロクハ池が埋め立てられ，浄水場ができた。

ウ　鉄道と有料(高速)道路の間に小学校または中学校が2つできた。

エ　鉄道の北に果樹園が広がった。

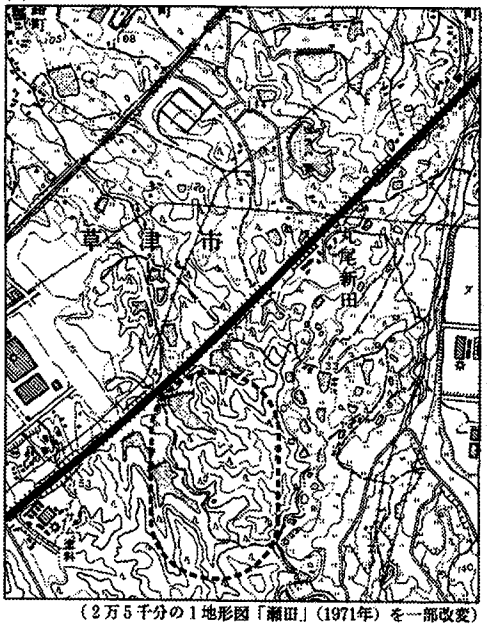
オ　インターチェンジ(IC)や新しい道路ができた。

図1



（2万5千分の1地形図「瀬田」(2008年）を一部改変）

図2



（2万5千分の1地形図「瀬田」(1971年）を一部改変）

＜指導計画（４時間）＞

時	主　題	主な学習内容	学習課題	資料・その他
1	アメリカ合衆国の概要	自然（地形・気候） 移民の国・多民族国家	アメリカ合衆国はどのような国なのだろうか	地図帳、白地図、人種構成図、地理資料集
2	アメリカ合衆国の農業 ＜学習指導案（略案）＞	世界の食料庫、農業地域、適地適作、大規模農業、	アメリカ合衆国の農業はどのような特色があるのだろうか	地図帳、白地図、農業地域図、地理資料集
3	アメリカ合衆国の工業	世界一の工業国、工業地域、地下資源、工業都市	アメリカ合衆国の工業はどのような特色があるのだろうか	地図帳、白地図、工業地域図、地理資料集
4	アメリカ合衆国と日本	日米貿易、貿易の自由化、日本企業の現地生産	日米貿易はどのような特色と課題があるのだろうか	地図帳、白地図、貿易統計、地理資料集

＜指導案（略案）＞　本時（第２時）　主題；アメリカ合衆国の農業

段階	学習内容	主な発問	予想される発言・思考	指導上の留意点	資　料
導入	・身近な食品から	・パン・味噌・食用油の主な原料はなにか。家畜の主な餌はなにか。	・パンは小麦、味噌は大豆、サラダ油は大豆？家畜の餌は？など。	・小麦、大豆、トウモロコシ（飼料作物）を出させる。 ・アメリカは農業国でもあることに気づかせる。	
展開	・世界の食料庫 ・農業生産割合	・その原料は主に世界のどこで生産されているか。 ・小麦・大豆・トウモロコシのアメリカの生産割合はどれくらいだろうか。	・アメリカ、カナダ、中国など ・小麦は世界２位、大豆は世界１位、トウモロコシは世界１位である。(2008年)	・農業地域を地図で確認させる。	・地理資料（農業統計） ・地図帳（アメリカの農業・気候区分図）
	・栽培地域 ・適地適作	・アメリカの農作物の栽培地域はどうなっているか。	・小麦はロッキー山脈東～ミシシッピ川流域など	・気候などの自然条件と消費地・輸出など社会条件との関連を考え、「適地適作」を導く。	
		・なぜ、この地域にこれらの作物が栽培されているのか。			
	・大規模農業	・アメリカの第一次産業人口の割合はいくらか。	・２%、10%、20%など	・1.5%（2008年）を導く ＊日本は2.8%（2008年）	・地理資料（産業別人口構成）
	・企業的農業 ・労働生産性	・アメリカの農業従事者一人当たりの耕地面積はいくらか。日本の何倍か。	一人当たり耕地面積は？ 日本の10倍、20倍、30倍、50倍、100倍	・一人当たり耕地面積154haで、日本の約55倍であることを説明する。	・地理資料（主な国の農業従事者１人あたりの耕地面積）
		・なぜ、農業従事者の割合が少ないにもかかわらず、農業生産量が多いのだろうか。		・大規模農業、企業的農業労働生産性が高いことを考えさせる。	
	・農作物の貿易 ・アグリビジネス	・アメリカの小麦・大豆・トウモロコシの輸出割合はどれくらいだろうか。 また、主な輸出先はどこだろうか。	・小麦・大豆・トウモロコシとも世界一（2008年）であり、日本にも輸出している。	・アグリビジネスに触れる ・アメリカの小麦・大豆・トウモロコシは世界中で流通し、日本にも輸出していることを気づかせる。	・地理資料（貿易統計） ・地理資料（アグリビジネス）
		・なぜ、アメリカの農作物の輸出割合は高いのだろうか。		・日本の小麦の６割、大豆の７割、トウモロコシの９割がアメリカからの輸入であることに気づかせる。	
		・もし、干ばつなどで農作物が不作だったらどうなるだろうか。	・アメリカの輸出量が減る。 ・農作物が値上がりし、関連する加工品が値上がりする。		・新聞記事（干ばつによる農作物の不作など）
まとめ	・農業の特色	・アメリカの農業の特色をまとめよう。		・白地図、ミニテストで確認する。	

（２）大学入試センター試験地理Ａ・地理Ｂの問題と高等学校地理授業の留意点

１）大学入試センター試験地理Ａの問題の例

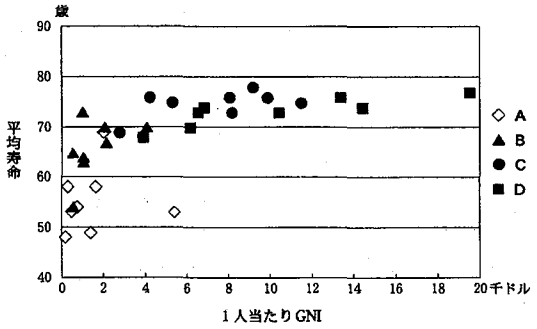
問題３は、2012年実施の大学入試センター試験地理Aの問題の一部である。この問題は学習指導要領の「地球的課題の地理的考察」に関するものである。問１は、各地域の人口上位８カ国の１人当たりGNIと平均寿命から東南・南アジアを答える問題である。平均寿命は先進国（地域）ほど長く、途上国（地域）ほど短いことや各地域の人口上位８か国の１人当たりのGNIを理解しておれば、解ける問題である。正解は②Ｂであり、①Ａはアフリカ、③Ｃは中央・南アメリカ、④は東ヨーロッパである。これに続く、問２（省略）

問題３

問１　下線部③に関して，次の図１は，いくつかの地域における人口上位８か国の１人当たりGNI(国民総所得)と平均寿命を示したものであり，A～Dは，アフリカ，中央・南アメリカ，東南・南アジア，東ヨーロッパ*のいずれかである。東南・南アジアに該当するものを，下の①～④のうちから一つ選べ。23

*ロシアを含まない。

図１



統計年次は，１人当たりGNIが2009年，平均寿命が2007年または2008年。
『世界国勢図会』などにより作成。

①　A　②　B　③　C　④　D

は、HIV／エイズ、結核、マラリアの感染症による人口10万人当たりの死亡率の高低を階級区分図で示し、感染症を風土や公衆衛生の観点から答える問題で、地理的思考・判断を要する。センター試験は地名や細かい統計数字は分からなくても、地域の特色を理解していれば解ける問題が多く、授業の留意点は、その地域を地図で確認し、自然環境（気候・地形など）・社会条件（産業・経済発展など）、歴史的背景（旧宗主国と旧植民地など）を関連づけて考えさせることである。

２）大学入試センター試験地理Ｂの問題の例

表２は、2008年～2012年実施のセンター試験地理Ｂ本試験の出題分野である。毎年出題されるのは、地形図読図を含む「地域調査」、自然環境の「地形」・「気候」、地球的課題の「人口」、「都市・村落」である。また、「国家・民族」、「農業・食料」「エネルギー・鉱産資源」「工業」の出題頻度が高く、センター試験が学習指導要領の内容に沿い、自然環境、社会条件、歴史的背景を関連づけて考える地理的見方・考え方による解法を求めていることがわかる。

問題４は、2012年のセンター試験地理Ｂの問題の一部である。この問題は、北アメリカの地名の分布をスペイン語、フランス語、ロシア語に因んだものに分け、地域の歴史的背景を問うもので、前述の中学校でのアメリカ合衆国学習を基礎に高等学校での内容が加わった問題である。答えは⑥である。

表２

大学入試センター試験　地理Ｂ　本試験　出題分野一覧

（実施年）

出題分野	2012年	2011年	2010年	2009年	2008年
地域調査	○	○	○	○	○
国家・民族	○	○			○
地形	○	○	○	○	○
気候	○	○	○	○	○
水		○		○	
自然災害	○				
環境問題・地域開発		○			
農業・食料	○	○		○	
林業・水産業				○	
エネルギー・鉱産資源	○	○	○		○
工業		○	○		○
貿易・投資・国際援助		○	○		
人口	○	○	○	○	○
都市・村落	○	○	○	○	○
生活行動			○		
交通・通信			○		
東・東南・南アジア					○
西アジア					
北アフリカ		○			
中・南アフリカ		○			
ヨーロッパ			○		
旧ソ連					
アングロアメリカ	○			○	
ラテンアメリカ					
オセアニア					
日本					

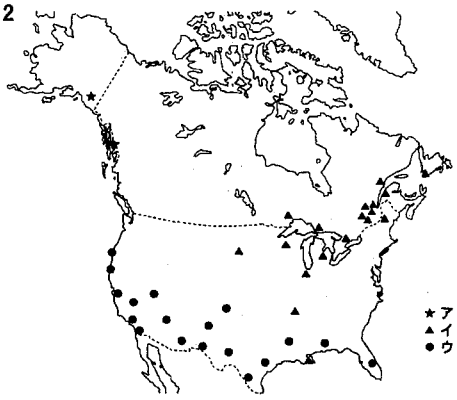
河合出版『2013大学入試センター試験過去問レビュー地理Ｂ』より抜粋して作成

問題4

問2 北アメリカにおける地名の分布は，ヨーロッパ人の移住の歴史を反映している。右の図2は，スペイン語，フランス語，ロシア語に因(ちな)んだ主な地名の分布を示したものであり，**ア**～**ウ**はそのいずれかである。**ア**～**ウ**と言語名との正しい組合せを，次の①～⑥のうちから一つ選べ。 **20**

	①	②	③	④	⑤	⑥
スペイン語	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
フランス語	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
ロシア語	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

図2



井上謙治・藤井基精編『アメリカ地名辞典』などにより作成。

問題5

問4 「箱根八里(はこねはちり)は馬でも越すが，越すに越されぬ大井川」と，島田と金谷(かなや)がかつて川越えの宿場町としてにぎわっていたことを知ったコハルさんは，地形や土地利用の変化について新旧の地形図を比較した。次の図3は，図1中に示したYの範囲における，1895年と1997年の5万分の1地形図(原寸，一部改変)である。図3から読み取れることがらを述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 **33**

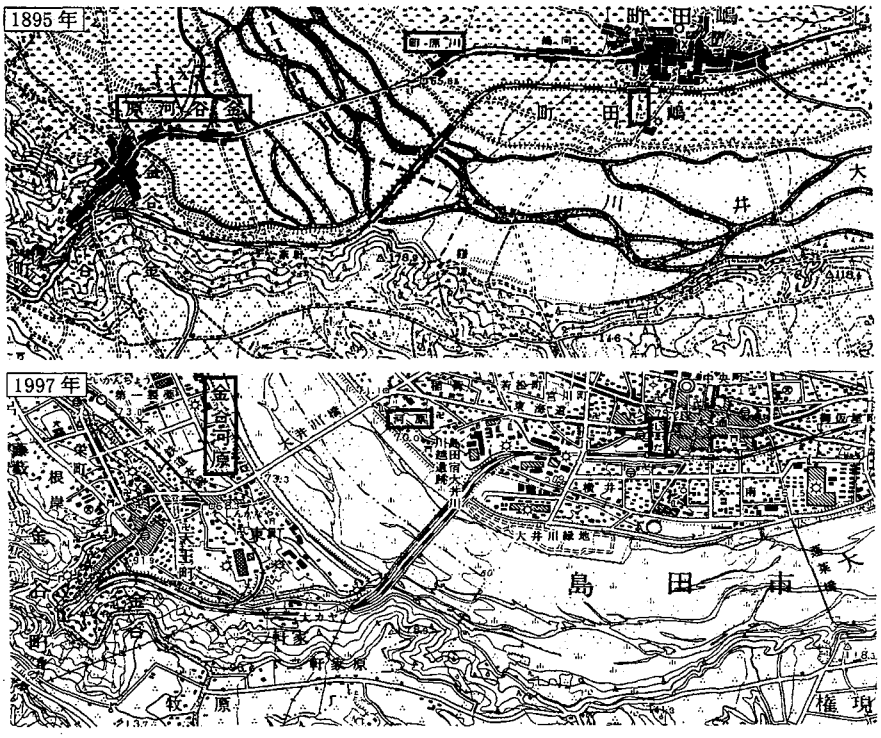
① 大井川を横断する鉄道橋の下流では，1895年時点には大井川を渡るための道が何本かみられ，1997年時点には蓬莱橋(ほうらいばし)がみられる。

② 金谷河原(かなやかわら)では，1895年時点には水田が広く分布していたが，1997年時点には堤防が整備され，工場や鉄道が建設されている。

③ 島田駅周辺では，1895年時点には駅北側の東海道沿いに集落がみられ，1997年時点には駅南側にも市街地が展開している。

④ 島田の河原(川原町)と金谷河原との間では，1895年時点には橋があり，1997年時点には同じ架橋位置に大井川橋がみられる。

図3



3）大学入試センター試験地理Aおよび地理Bに共通する地形図読図問題の例

問題5は、2012年のセンター地理A・センター地理Bに共通する地形図読図の問題である。この問題も地図記号などを理解しておれば解ける問題で、前述の高校入試問題とほぼ同じ内容である。**問題5**の次の問題（省略）は、産業別従業者割合から山間地域、丘陵地域、沿岸地域を答える問題と大井川流域の洪水と地形を絡めて考える問題で、高校生としての地理的見方・考え方が必要である。

4）大学入試センター試験問題と高等学校学習指導要領の整合性について

1）2）3）の結果、大学入試センター試験地理A・地理Bの問題は学習指導要領に沿った内容で、基本的な問題が多く、日ごろの授業で培った地理的見方・考え方を駆使して考える問題である。したがって、**大学入試センター試験地理A・地理Bの問題と高等学校学習指導要領（日ごろの授業）は整合性がある。**

5．教員採用試験を意識した大学での地理－学生に求められる地理的素養－

大学での地理は、地理学研究者が自身の研究分野を講義するのが一般的であり、学習指導要領の範疇外である。そのため、学生が地理学の専門分野を学ぶことは地理的見方・考え方を培っているが、教員採用試験との整合性は少ないように思われる。しかし、教員を目指す学生は教員採用試験を受験する。そこで、教員採用試験問題を例にして、学生に求められる地理的素養について考えてみたい。

（1）教員採用試験問題の例と学生に求められる地理的素養

1）兵庫県公立学校教員採用試験問題の例と学習指導要領

表3は、2009年度～2013年度の兵庫県公立学校教員採用試験中学校社会・高等学校地理歴史のうちの地理の出題内容である。この表からのみで出題傾向は判断できないが、自然環境や地形図読図のほか、都市、交通、工業、農業からも出題されている。また、2011年度試験でFIFAワールドカップ出場国に関する世界地誌が出題されているが、これは2010年に南アフリカでFIFAワールドカップが開催されたためである。教員採用試験は、時の話題や採用試験実施都道府県に関する内容が出題されることにも留意したい。

表3

兵庫県公立学校教員採用試験　中学校社会・高等学校地理歴史のうち、地理の出題内容一覧　（年度）

出題分野	2013年	2012年	2011年	2010年	2009年
地形図読図	○				○
自然災害					○
自然環境（地形・気候など）	○	○			
都市	○				
交通、工業		○			
地図の種類			○		
緯度、経度、時差			○		
世界地誌（FIFAワールドカップ出場国）			○		
東南アジア地誌				○	
農産物生産量、地下資源産出量など				○	
フランス地誌					○

兵庫県県民情報センター所収資料より作成

問題6は、2013年度兵庫県公立学校教員採用試験問題の地理的内容の一部である。地域は茨城県つくば市に関するもので、県名、地形図読図（標高、面積、地図記号など）、都市構造、人口統計などから地域の特色を問う問題である。この問題を学習指導要領との関連でみれば、「県の様子について資料を活用して特色を考える」（小学校3・4学年抜粋要約）、「我が国の国土の自然などの様子」（小学校5学年要約）、「身近な地域における観察」（中学校）、「地形図の読図などを通して地理的技能を身に付けさせる」（高等学校地理A）、「地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色をとらえる地理的技能を身につけさせる」（高等学校地理B）に関連している。すなわち、教員採用試験問題は学習指導要領の観点から出題されている。

2）教員採用試験問題と小・中・高等学校学習指導要領との整合性について

1）の結果、教員採用試験問題は、出題傾向が高校入試や大学入試センター試験と似ており、小・中・高等学校学習指導要領に沿った内容である。つまり、**教員採用試験問題と小・中・高等学**

校学習指導要領との整合性がある。ただ、例を示していないが、教科書の脚注に載るような細かい内容が出題されており、大学入試センター試験以上の知識理解が必要である。

3）学生に求められる地理的素養とその手法

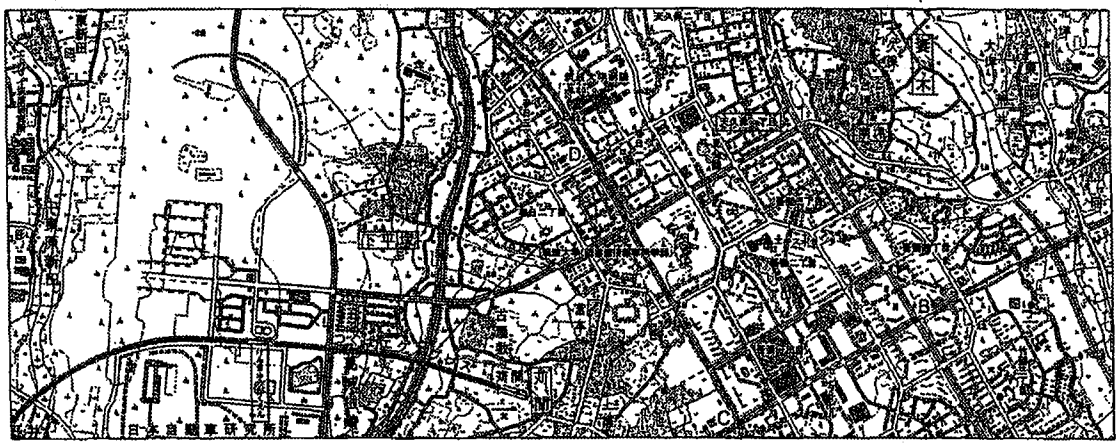
学生に求められる地理的素養とは何か。地理および地理学は5W（When, Where, Who, What, Why）1H（How）のうち、Whereを重視する。そして、What, Whyと続く。なぜ、その場所・その地域なのか。なぜ、その地域では、その「もの」や事象が存在するのか。その「もの」や事象の分布はどうなっているのか。地域的・空間的広がりはどうなっているのか。その原因は何か、などを、地図を見て考える。資料や各種統計から地図を作成して考える。外国を含め、地方的（地域的）特殊性と一般的共通性を考える。現地を巡り、聞き取りをして考える。地域の特色を自然環境や社会条件、歴史的背景と関連させて考える。

問題6

Ⅰ　次の文章と図を見て、あとの問いに答えなさい。

つくば市は東京から北東に約50km、（　ア　）県の南西部に位置し、市域には標高約（　イ　）mの関東ローム層におおわれた平坦な地形が広がっている。昭和38年に東京の過密解消、科学技術の振興と高等教育の充実を目的に国家プロジェクトとして筑波研究学園都市の建設が閣議了解され、国等の試験研究・教育機関の移転が進んだ。また、昭和60年に開催された「科学万博」を機に民間研究機関の進出や商業施設等の開業が進んだ。平成17年には、東京（秋葉原）～つくば間を45分で結ぶ都市高速鉄道つくばエクスプレスが開通し、①都心からのアクセスが飛躍的に向上した。つくば市は、人口が20万人を超えたことから、平成19年に②特例市に移行した。

図



（2万5千分の1の地形図「上郷」平成19年発行）

1　上の文章中の（　ア　）に入る県名を書きなさい。

2　上の文章中の（　イ　）に入る適切な数値を、次のあ～えから1つ選び、その記号を書きなさい。

あ　0.2～0.3　　い　2～3　　う　20～30　　え　200～300

3　図中のA、B、C、Dを頂点とする四辺形の部分の実際の面積に最も近いものを、次のあ～えから1つ選び、その記号を書きなさい。ただし、図中のA－B間は約6cm、B－C間は約4cmである。

あ　1.5km²　　い　15km²　　う　24km²　　え　30km²

4　図中のA、B、C、Dを頂点とする四辺形の部分に見られない地図記号を、次のあ～えから1つ選び、その記号を書きなさい。

あ　病院　　い　大学　　う　工場　　え　図書館

5　次のあ～おの文のうち、図から読み取ることができるものを2つ選び、その記号を書きなさい。

あ　「下平塚」付近の集落の北西では、建設中の鉄道が見られる。

い　「けんきゅうがくえん」駅周辺では、建設中の道路が見られる。

う　「苅間」付近から東では、建設中の鉄道が見られる。

え　「天久保一丁目」に比べ、「南坪」には古くからの集落が立地している。

お　「妻木」付近では、周辺よりやや高い土地に田が広がっている。

6　下線部①について、東京の丸の内や大手町などのように、大都市の都心部に位置し、行政・金融・企業などの中枢管理機能を持つ事務所が集中している地区を何というか、書きなさい。

他地域との結びつきを考える、等々である。

つまり、地理的素養は地図を通して、その広がりを考えることから始まる。電車に乗る、景色が都市から農村に変わる、なぜか、都市はどこまで広がっているか。坂がある、なぜか、河川の関係か、山地の関係か。寒冷地に行く、屋根の形が違う、作物が違う、なぜか。外国に行く、自然が違う、生活文化が違う、なぜか、どのように広がっているか、等々、地理的素養を身につける材料はいくらでもある。地図を読み、地図で表現する能力を培うこと、すなわち、地理的素養、地理的見方・考え方を身につけることである。

6．おわりに－結論－

以上、考察してきた結果、本論考の結論は次のとおりである。１つは、高校入試問題と中学校学習指導要領（日ごろの授業）は整合性がある。２つは、大学入試センター試験問題と高等学校学習指導要領（日ごろの授業）は整合性がある。３つは、教員採用試験問題と小・中・高等学校学習指導要領は整合性がある。つまり、高校入試・大学入試センター試験[12]・教員採用試験とも、学習指導要領に沿って、地図や図表、統計資料などを読み取る問題が多く、発達段階に応じて、より詳細な地理的思考・判断を要することがわかった。また、地理授業の視点および留意点は、地域の地理的事象を地図に表し、その原因を「なぜ」と問い、自然環境、社会条件、歴史的背景と関連付けて考えさせ、地理的見方・考え方を培うことである。さらに、社会科教員を目指す大学生に求められる地理的素養とは、小・中・高等学校での地理学習を基礎に、地図や現地をとおして、空間的広がりを考える能力、すなわち、地理的見方・考え方を培うことである。

註および参考文献

1） 例えば、小・中・高等学校教員の会員が多い社会系教科教育学会発行の『社会系教科教育学研究』21号（2009年）～23号（2011年）の掲載論文33本（地理・歴史・公民など社会系教科のすべての内容を含む）の内訳は、授業開発・授業分析・授業設計・授業構造・授業展開など授業に関するもの26本、外国のテキスト構成・カリキュラム・シラバス４本、カリキュラム開発１本、評価方法開発１本、概念形成１本であり、現場の教育実践が78％である。

2） 高校入試、大学入試の分析は、教育員委員会や学校、教育関係研究会・大学入試センター・塾・予備校・教育系企業などで行われ、教員採用試験の分析は教育委員会や大学、専門学校・教育関係企業などで行われている。特に、大学入試センター試験は、教科担当教員・教育研究団体の意見・評価、問題作成部会の見解が大学入試センターのHPで公開されている。

3） 文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版

4） 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領解説社会編』日本文教出版

5） 文部科学省（2010）『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』教育出版

6） 富士教育出版社（2012）『平成25年度受験　兵庫県　公立高校入試問題』。本論に引用した高校入試問題例の出典である。

7） 河合出版（2012）『2013大学入試センター試験　過去問レビュー』

8） 旺文社（2012）『2013全国大学入試問題正解　地理』。本論に引用した大学入試センター試験問題例の出典である。

9） 兵庫県公立学校教員採用試験問題（兵庫県県民情報センター所収の資料をコピーしたもの）。本論に引用した教員採用試験問題例の出典である。

10） 協同出版（2012）『2014年度版　兵庫県の社会科過去問』

11） 学習指導案作成にあたって、＜単元目標および評価規準＞と＜指導計画＞は、鹿児島県総合教育センターHP所収の社会科学習指導案（平成21年５月29日、加藤晃一教諭）を参考にし、＜指導案（略案）＞は、藤本百男（1990年）『アメリカ合衆国を通しての国際理解教育の研究　第Ⅰ集』pp.102～103兵庫教育大学国際理解研究会、を参考にした。なお、学習指導案の様式は横に、①学習内容、②学習活動、③指導上の留意点、④資料、⑤評価規準、縦に①導入、②展開、③まとめ、とするのが一般的であるが、本指導案では、「鍵になる発問」を明確にするためこの様式にした。

12） 大学入試センターのHPによれば、2012年実施の地理Ａの問題作成部会のまとめとして、「学習指導要領に示す目標、内容に即した問題を構成することを、本部会の根本的な作業と位置付けており、慎重に問題作成に取り組んだ」と記され、地理Ｂの問題作成部会のまとめには、「学習指導要領に基づいた基礎的・基本的な教科書レベルの問題を中心に、地理的知識を基にした考察力や思考力を必要とする問題まで幅広く包含した標準的な問題と評価されたと考えている。“地理的なものの見方や考え方を問う”という地理の出題方針が定着したものと考えている」と記されている。